



カンボジアの子供たちに教育の機会を

AUG.2003 No. 8

長い梅雨がやっと明け、暑いながらも夏が来たことをとても嬉しく感じます。おいしいスイカに、打ち上げ花火。夏ならではのイベントもたくさんあります。当基金では、7月に2周年目の総会と懇親会を行いました。しかし、楽しい事だけではなく、地震や台風による被害も深刻です。カンボジアのアンロンコン村でも雨や風による大きな災害がありました。その様子をみなさまにお届けいたします。

韓国事務局活動報告

韓国の大学は7月から約2ヶ月間の夏休みです。韓国事務局のスタッフは全員が大学の最終学年、それぞれが今までの活動を振り返り、また将来の自分を見据えながら、学生生活最後の夏休みを過ごしています。韓国の学生は、日本の学生に負けず劣らず非常に活発で、あるものは、UNESCO 主催の国際青少年キャンプに参加して世界各国の同世代と過ごし、あるものは、別のキャンプでアメリカへと旅立ち、またあるのものはインドへ一人放浪の旅へと出かけています。

韓国事務局のスタッフは現在7名です。就職や進学など、スタッフ全員が人生の岐路にあり非常に忙しい中ではありますが、カンボジアで勉強し、同じように希望溢れる未来を思い描く子供たちのことを思い浮かべながら一生懸命活動しています。現在、韓国事務局における主な活動の一つに、チャットによる日本・韓国間でのインターネット会議が挙げられます。チャットというのは、パソコンを使って人とおしゃべりすることで、Eメールとは違い、その場で意見交換をすることができます。

当初は使用言語が英語と言う事もあり、多少の抵抗感を感じ不定期であったインターネット会議も、今では毎週のように会議を開き、活発に議論を交わしています。そこでは、日韓双方の情報交換から新しいプロジェクトの立ち上げまで、実に様々なことが話し合われています。議論をしていると「日本事務局」と「韓国事務局」という概念が取り払われ、「日韓アジア基金」と言う団体のもとで活動する同じスタッフなのだということを実感する事ができます。今後もこのような、国境を越えた連携を一つでも多く生み出し、日本と韓国のため、カンボジアのため、そしてアジアの為に手を取り合い活動していきたいと思えます。

(田村)

~ CONTENTS ~

- 1 韓国事務局活動報告
- 2 総会・懇親会のご報告
 - a 禹代表の挨拶(ビデオレター)
 - b 総会
 - c 懇親会
 - d アンケート結果
- 3 募金活動
- 4 韓国の暮らしあれこれ
- 5 緊急災害支援のお礼とご報告
- 6 アジア未来学校より
- 7 平成14年度会計報告、15年度予算
- 8 事務連絡



<韓国スタッフ>

総会・懇親会のご報告

さる7月27日、午前中に日韓アジア基金第一回総会とスタッフ希望者への活動説明会を、午後からは会員の皆様とスタッフ、また韓国・カンボジア留学生や当基金に関心を持ってくださっている方を交えて懇親会、募金活動をおこないました。その模様をお伝えします。

禹代表挨拶(ビデオレター)

皆様のお陰で設立3年目を迎えました。考えてみましたら、皆様のお陰でここまで来られたとっております。誠に有難うございます。

ノ・ムヒョン現韓国大統領は、キム・デジュン前韓国大統領よりも、もっと積極的な対日関係を目指しています。彼によると、日韓関係に問題が発生した時、日韓の政治家はお互いの国民感情を刺激してはいけないと言っています。実際に韓国において一番大切な国は日本だと言っています。これは、私達が活動を始めた時と比べてみますと、大きな変化であり、頼もしい変化だと思えます。

私は初めて日本に来た時、文化の壁に悩みました。しかし、立場を変えて考えれば理解できます。皆様は文化的な壁を身をもって感じた事はありますか？

私達は、日韓が協同して、カンボジアの子供たちに教育の機会を与える活動を行う事により、日韓の文化の壁を乗り越えていくという事をもう一つの趣旨として頑張っております。勿論、一番始めに考えた壁は歴史的な壁でしたが、私達の活動をもっと効率よく定着させていく為には、日韓における様々な壁を乗り越えていかなければならないと考えております。



カンボジアでは、現地スタッフの安田理裕が頑張っております。又、日本でも皆様のご支援を頂きまして、スタッフが頑張っており地盤を作りつつあります。韓国でも、時間は少しかかるかもしれませんが、地盤作りに頑張っております。

今までの活動の中で、今年は、日韓における直接的な交流に力を入れていきたいと思っております。日韓の輪・日韓の協力こそ私達の根本です。「日韓の壁を乗り越えていく」事が、私達の活動の根本中の根本ではないかと思っております。

皆様、スタッフに「韓国に行って、韓国の人と交流したい。」等と声をかけて下さい。韓国にも声をかけていきたいと思っております。

少なくとも活動を共にし、心を共にしている私達には「日韓における歴史的・文化的な壁」はないという事を示していきましょう。私達が日韓の人々を引っ張っていくのはどうでしょうか？

現在、私は皆様と距離的に離れた所におりますが、私は常に皆様のそばにいるという事をくれぐれも忘れないで頂きたいと思っております。

改めて御礼を申し上げながら、ご挨拶とさせていただきます。

(文責：長谷川)

総会

例年ならば既に猛暑の季節、しかし今年は梅雨が未だ明けない7月27日、「日韓アジア基金(日本)」の初めての総会が、文京区のアジア文化会館で開かれた。

参加予定の会員の方の急な欠席等もあり、総会は15分遅れて、高橋事務局長の挨拶と司会で始まった。冒頭、基金の創立者で現在アメリカに留学中の禹守根代表がビデオで挨拶をおこなった。ビデオの中で禹代表は「多難な1年を無事乗り切れたのは、会員の皆様のお陰であり、今後とも変わらぬご支援をお願いしたい。今年は日韓の交流にも力を入れたい。今私は遠く離れた地にいるが、心は常に皆さんの傍にいたいことを忘れないでほしい」旨のお礼と決意を述べた。

次に「日韓アジア基金(日本)」の規約案の審議に入った。規約担当の荒川から「この規約は、同様な活動をしているNPOの規約を参考に、将来の基金のNPO法人化を念頭において作られていること」等、アウトラインの説明があり、原案どおり承認された。続いて規約に基づいて理事、監事の選任に移り、これも原案通り承認された。選任された理事により直ちにその場で代表理事に江本哲也を、副代表理事に中村節子を選出した。

江本新代表理事は「代表を務める自信は未だないが、選ばれた以上全力で基金の活動を支えて行く。会員各位の今後の一層のご協力なくしては基金は立ち行かないので、よろしく願いしたい」と挨拶、以後は規約にのっとり議長を務めた。



<代表理事 江本哲也>



<大澤の会計報告>

続いて昨年度決算、本年度予算の説明、審議に移り、財務担当の大澤から当基金の主な活動であるカンボジアの「アジア未来学校」を維持、経営して行くためには、大変厳しい財政事情にあることが報告された。財政に関しては、助成金確保の問題や今後の収入確保策について意見やアドバイスを頂き、原案が承認され、無事総会は終了した。

この種ボランティア団体の会合に、多く会員の出席を望むのは無理としても、1人でも多くの方にご出席をして頂ける努力と、ご出席頂けなくとも常にご意見をいただけるような開かれた運営に今後とも努めることを、スタッフ一同今回の教訓としたいと思っている。

(荒川)

懇親会

総会も無事に終え、懇親会が始まった。総会に参加されていた会員の方や、日韓アジア基金の活動説明会に参加して下さった方。そして、カンボジア、韓国の留学生が飛び入りでその場を盛り上げて下さった。懇親会は会員を代表し松田様の乾杯で幕を開ける。総会の畏ま

っ

た雰囲気は一転し、終始和やかなムードで会は進行した。スタッフがこの日の為に腕によりをかけて作ったアジアの料理を囲み、日韓アジア基金になぜ関わりを持ったのかなど情報交換に花が咲いた。

かくいう私も初めてお会いする会員の方とお話をし、現在の活動のアドバイスなどを頂くと同時に、我々の活動を応援して下さいている方がこれほど多くいらっしゃるのかと改めて感じ、これからの活動のエネルギーを頂いた気がした。

後半は、カンボジアの国語であるクメール語および韓国語を用いての伝言ゲームを実施。日本人の参加者にとって伝言ゲームはお馴染みだが、全く言葉の意味のわからない他の国の言語を用いてのゲームに苦戦していた。簡単にルールを説明すると、出題者がクメール語ないし韓国語で伝えてもらいたい簡単な文章とその意味を列の一番初めての人に伝える。言葉は聞いたそのままを次の人に伝え、意味はジェスチャーで最後の人まで伝えというゲームである。なかなか難しかったのが「ついてないな」という意味を「愛してます」とつなげてしまった例なども出て、参加した高校生からもゲームが楽しかったという声を頂いた。その次には、カンボジアの留学生に伝統的な踊りを披露していただき、参加者もそれを真似て踊った。リズムに合わせ体を動かすことが少し難しかった。

そんなこんなで2時間近く続いた懇親会もあっという間に幕を閉じた。国籍や世代の違う人と空間を共にするという事は、日常生活においてあまりない。参加者の方々も有意義な時間を過ごして下さいに違いない。来年度も楽しい企画を準備してみたいし、総会に参加した人を飽きさせないプログラムを準備したいものである。

(高橋)



<アジア料理を囲み大勢来てくれた留学生と話がはずむ>



<韓国から届いた映像とともに活動報告>



<留学生にカンボジアの踊りを習い中！>

参加者の皆様にアンケートのご協力を頂きました！

～日韓アジア基金の発展のために～

日韓アジア基金の発展のために、参加者の皆様にアンケートのご協力を頂き、大変温かいお言葉を頂きました。誠に有難うございます。今後、一層の発展の為にスタッフ一同努力して参ります。

アンケートからいくつか紹介させていただきます。

～「日韓アジア基金」について～

国際交流とボランティアが融合している新しい型が良いと思った
目的もはっきりしていて好印象
教育の援助が素晴らしいと思った
地道な部分を大切にしていると思った

～当基金を知ったきっかけ～

ボランティアフェスタに参加して知った
ホームページ・サイトからの検索
先輩や友人を通じて
(留学生のほとんどの方)



～「懇親会」について～

温かい雰囲気
感動した
とても楽しかった
熱意を感じた
初めて外国人と沢山交流した
解説付きの料理もおいしく、クイズやダンスも楽しめた

～その他～

規約・会計報告・人事等、きちんと土台作りがされていて心強く思った。
いよいよこれからの団体だと思った

スタッフが各種イベントに積極的に参加して日韓アジア基金を知っていただくことや電子媒体の有効活用が大変重要だと感じました。

皆さまにお願いがございます。周囲の方々に「日韓アジア基金」のことをどうぞお話ししてください。口コミも大切な手段だと感じたからです。今後ともよろしくお願い致します。

(長谷川)

七夕祭り・巣鴨駅前 募金活動

<七夕平塚祭りでの募金>

毎年、豪華な七夕飾りとともに盛り上がりを見せる「平塚七夕祭り」。今年は7月3日から7日までおこなわれました。そのうち4日と5日の2日間、私たちは平塚七夕祭り実行委員会のご協力を頂き、募金活動を行いました。

日韓アジア基金の初めての募金活動ということで、参加メンバーは皆始めは緊張しましたが、私達のスローガン「カンボジアの子ども達へ教育の機会を！」という言葉とともに、募金を呼びかけ、支援先である村の緊急援助のチラシを配りました。行き交う人々の中には、立ち止まりチラシを見て募金をして下さる方、笑顔と共に「がんばってね」と声を掛けてくださる方、一度は通りすぎた後小走りに戻ってきてお金を箱に入れてくれる子どもたちがいました。また、近くでお店を出していた外国人の方も呼びかけに協力してくださったり、お国の屋台を出していたカンボジアの方に“クロマー”というカンボジア伝統のスカーフをいただくなど、思いもかけない応援をもらいました。最終的に集まったお金は、13,384円でした。



<韓国人留学生も協力してくれました>

<巣鴨駅前街頭募金>

7月27日に行われた総会・懇親会のあと、参加者の方々に日韓アジア基金の活動を体験していただく機会として、懇親会参加者の中から希望者を募り、スタッフと共に募金活動を行いました。当初スタッフの中では、多くても3、4人だろうと思われていた希望者は、実際はなんと14人！そのうちの大半はカンボジアの留学生！！スタッフ4人を加え総勢18人の大所帯で巣鴨駅前にちらばり募金の呼びかけをしました。始めは上手く呼びかけの言葉が発音できなかったカンボジアの留学生、



初めての経験で恥ずかしくてあまり声をだせない韓国人留学生。しかし、1人2人と募金をしてくれる人が **<募金箱に寄付が入り皆笑顔がいっぱい！>**

増えるにつれて、また、自分が配るパンフレットを受け取ってくれる人が増えていく度に、皆声が大きくなり一生懸命呼びかけるようになりました。募金活動が終わったあと、あるカンボジア留学生が言っていました。「日本に来て何年にもなるけど、このようなボランティア活動初めてだな。なかなか受け取ってもらえないし大変だったけど、自分たちの国の為に他国の人があんなにやってくれていることが嬉しくて、自分も何かできればと思った。そのいいきっかけとなったよ。ありがとう。」というメッセージをもらいました。今回の巣鴨募金では、短い時間だったにも関わらず、多くの方々にご協力頂き 5,038円をご寄付頂きました。

(樋口)

<参加者の感想>

今回、7月に2度行なわれた募金活動の両方に参加して下さった、高校生の山崎美穂さんから活動に参加しての感想をいただきました。

私にとってボランティアはとても難しい事だと思っていました。



<山崎さん(左)と二人の高校生>

平塚の七夕祭りで、私でもやればできるのだとたくさんの勇気を持って募金をやった時、私と同じ年くらいの女の子2人が「頑張ってください!」と私に声をかけてくれた時の嬉しさが、たくさんたくさん勇気をくれました。今でもその言葉が忘れられません。平塚での募金活動は皆さんお金を持っているのか、たくさんのご寄付をいただきました。

巣鴨駅で、日韓アジア基金の総会と懇談会の後、韓国とカンボジアの留学生の方や日本のスタッフの方などたくさんの方で募金をしました。皆で協力して一つの事をしていると、全然国境を感じませんでした。皆一人の人間なのだ改めて感じました。

ボランティアは一人では難しいですが、皆で協力すれば実現できるような大きな大きな力になり、たくさんの友達ができ、楽しく形を作っていけるのですね。自分にとって日韓アジア基金に関わった事で自信がつき、関わっていく事が癖になるくらい楽しく充実しています。

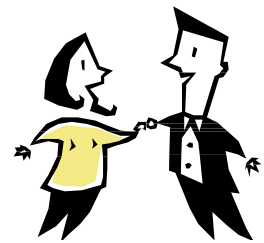
韓国の暮らしあれこれ

先日ソウルのある家を訪ねたとき、大学生の息子の口に母親がおかずを入れてやったり、手をにぎったりしているのを見ました。一般に韓国では肩を抱いたり手を取り合ったりして、愛情を体で表現することが多いですが、大学生と母親とのそういう姿は日本では考えられないので、ちょっと異様でした。

ところが40歳代の男性たちに聞いてみても、「オンマ(お母ちゃん)は特別だ。いまでもオンマの匂いがよくてその膝枕で昼寝をするし、同じ布団で寝ることもある。」とか「妻が料理をして“おいしい?”と聞けば一応“うん、おいしい”と言うけれどもオンマの料理とはくらべものにならない。」「アボジ(父親)が病気と聞いても“そう”と言うだけだが、オンマが病気だと聞けば飛んでいく。」と言うのです。日本の男性にもそういうところがあるかも知れませんが、韓国の母・息子関係はかなり濃厚です。そのせいか、男性たちは年上の女性にとっても優しく、以前わたしがキョンジュ(慶州)で病気になったとき、周囲に日韓の男性が大勢いましたが、病状を心配してくれたり重い鞆を持ってくれたりしたのは、日本人ではなく韓国の男性たちでした。

また高校三年になると朝は7時頃から夜は11時過ぎまで学校で受験準備をするなど、進学熱は日本以上に高いのですが、子どもの出世が親の生き甲斐であるところは少し前の日本のようです。明治以後の日本ではそういう息詰まるような密着した家族関係を嫌って“個の確立”を目指す生き方が文学作品の主題にしばしばなったものですが、その点、韓国は昔のままのようで、その暖かさが少し羨ましいのと同時に息苦しくはないのかと心配にもなります。一方で30歳代の離婚率は50%だと言いますから、これまた驚きで、このあたりから韓国の家族関係も徐々に変化していくのかな?と思われま

(波多野)



緊急支援ご寄付のお礼とその後の災害について

一難去ってまた一難

6月25日に発生した嵐により、アジア未来学校のあるアンロンコン村の家屋が大被害を受け、皆様に緊急支援募金をお願い致しましたが、その結果16万余円ものご協力を頂きました。本当にありがとうございました。当時の詳しい状況は次頁の現地事務所長安田の報告をご覧ください。支援金の使途についてご報告をする前に、その後の学校と村の状況をお話しさせていただきます。

1 学校と村の状況 - 嵐の後は洪水 -

学校は7月初めには授業を再開し、子供達の出席数も以前と同じ位になっておりました。また、損害を受けた家屋の復旧作業も始まっておりました。

ところが、一カ月後の7月27日に、あの地域には珍しい台風の影響でメコン川が氾濫し、村の周りを囲んでいる土手が数カ所にわたって崩れ、村は大人の胸までの浸水を受けました。このため、村人は全員緊急避難して村は無人となり、当然学校も授業を中止することになりました。8月7日現在の状況は、水はだいぶ引いて一部の村人が避難先から帰り始めて、小康状態を保っておりますが、授業再開の目処は立っておりません。



<嵐の後、教科書を乾かす少女>

2 支援金の使途

このような状況下で、皆様からの支援金の使途でございますが、嵐発生当初は食料・医薬品・衣料の援助を考えておりました。ところが食料については、モナコのNPOの緊急支援会計からの米20トンと、これは全く予想外だったのですが、7月末実施予定(当時)の国政選挙の関係から、王室の緊急援助米80トンが支給されて、当方からの援助の必要がなくなりました。また、幸いにして恐れていた病気の発生もなく、医薬品・衣料の大量支援も必要なくなりました。

このため皆様からの支援金は、嵐に関しては使途がなくなりました。そこで今後発生するであろう緊急事態に備えて、現地の裁量で自由に使える緊急支援会計を設定し、これに10万円を繰り入れ、残りを一般会計に繰り入れることとさせていただきます。事後報告で申し訳ございませんが、皆様のご了解をいただきたいと存じます。

そこに、今回(7月末)の洪水が発生し、まだ先行きもわからない状況ではございますが、食料については最大与党の人民党から各世帯に米25kgが支給され、当面「喰うには困らない」状況でございます。当基金としては、今後の伝染病発生の予防のため、全世帯(452戸)に蚊帳を提供することを考慮しております。これは他の2~3のNPOとの協力で実行すべく検討を初めたところで、確定はしておりませんが最新情報としてご報告致します。

このように次々と事件が発生する状況で、現地も日韓両支部も対応に追われておりますが、皆様からのご芳志は、現地の人達に一番役に立つ形で活かしたいと考えております。これまでのご協力に厚く御礼申し上げますとともに、今後もよろしく願いいたします。(大澤)

嵐の状況報告と支援の御礼

カンボジア事務所長 安田 理裕

6月25日、アンロンコン村を暴風雨が襲いました。これまでも、水害や暴風の被害に悩まされてきましたが、今回の災害は452世帯中168世帯の家屋が損傷するなど、これまでの被害をはるかに超えるもものでした。その中でも、全壊した59棟の家屋に暮らす住民は、突然その日から寝る場所すらなくなるような状況で、村は一時大混乱に陥りました。

今回、暴風雨が村を襲ったまさにその時私も丁度村に居合わせましたが、車から一步も外へ出られない状況で、車の中でアシスタントのリティと雨が止むのを待ち続けました。雨が止み外へ出てみると、斜めに傾いた家、屋根が飛ばされた家や、更には家ごと飛ばされてしまった家など、多くの家に損壊が見られました。また、大雨による浸水もひどく、家財道具が雨で濡れただけでなく、主食である米が流されるなどの問題が発生しました。村は雨季に外部から水が流れ込むのを防ぐため土手によって囲まれており、排水設備がないので集中的に雨が降ると、逆に村の内部に水がたまってしまうのです。すぐに市役所、国連など援助活動を行う他団体に連絡を入れ、緊急支援グループを結成、翌日から緊急援助活動を行う準備が始められました。

しかし、そこで新たな問題が発生しました。私たちのグループが緊急支援物資の配布を予定していた前日に、他団体が行った支援が、家屋損壊の認められた168世帯だけを対象としたものだったため、それ以外の住民から反発が起こったのです。浸水を含めると被害を受けたのは168世帯だけではなく、また当該団体と村のリーダーたちとの連携にも問題があったため、この問題はひどくこじれて、私たちの支援活動もすぐには行えないような状況となってしまいました。

数日後、これに対応するため、緊急で村の全体集会を開き、緊急支援グループの代表と住民との話し合いが持たれました。結果、食料と衣類と塗り薬の配布を全世帯に行うということで合意が生まれ、7月5日、他団体との協力の下、子どもたちには衣類の配布、全世帯に食料と薬の配布が行われました。その後、家屋の復旧作業が進み、だいぶ落ち着きを見せてきましたが、雨期はこれからが本番であり、より長期的な対策が求められていることも事実です。この度は、会員・支援者の皆様から多額の緊急援助金をいただきましたが、こちらの状況を見ながら有意義に利用させて頂こうと考えておりますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。



< 隣地区のお寺で寝泊りの生活 >



< 安田の膝より高い位置まで道に水が！ >

アジア未来学校

「もし、選挙に参加できたら、誰に投票する？」と聞いてみると、自信を持って「日本政府！」と答えてくれたダラ君。今回は、彼を主人公に、未来学校の子どもたちがどんな暮らしをしているのかを紹介したいと思います。アンロンコン村の住民は、元々プノンペン市内の、いわゆるスラム街で貧しい暮らしをしていましたが、大きな火災により住民は家だけでなく多くの財産も失うこととなりました。そしてアンロンコン村へ移り、新たに生活を始めた訳ですが、やはり教育費を捻出することが難しく、多くの子どもたちが学校へ通えない状況におかれています。



現在未来学校の午後クラスに通うダラ君も、そんな子どもの1人です。ダラ君は現在9歳。家族は、お父さん、お母さん、お姉さん2人、弟2人という7人家族です。ダラ君のお父さんは、アンロンコン村にはほとんどおらず、市内中心部に住む親戚の家で娘2人と暮らし、シクロ運転手の仕事をして家計を支えています。ダラ君のお母さんは言います。「うちの子どもは皆勉強が好きで、私もできるだけ長い間学校へ行けるようにと願っています。それでも、それができるかどうかは今の私たちの状況ではわかりません。」アンロンコン村へ来る以前にも、経済的理由から学校へ通ったことはなく、未来学校が初めての学校になります。ダラ君は勉強が大好きです。授業ではいつも手を上げて先生の質問に答えるなど、とにかく積極的。その積極性もあって、今では未来学校での成績も上々です。勉強だけでなく絵を描くことも大好きで、4月末に行われた絵の授業では、午前と午後の両方のクラスに参加するなど、とにかく学校にいるのが楽しくてたまらないといった様子です。



授業がないときも、川で魚やカニを捕ったり、友だちとボール遊びをしたりと元気いっぱい。私が学校から帰るときも、いつも元気よく手を振って見送ってくれます。ダラ君の将来夢は警察官かパイロットになること。その夢にちょっとでも近付けるよう、私も一生懸命応援していきたいと思います。



追記：

6月の始め、ダラ君が犬に噛まれるという事件が起こりました。ボール遊びをしていて、ボールを追いかけて近所の家に入ったところ、その家にいた犬に噛まれたというのです。足が腫れ、体調が優れないということで、私もお父さん、お母さんと一緒にダラ君を連れて病院へかけつけました。たった数ドルの治療費でも、家計にかかる負担は計りしれず、これは日韓アジア基金の緊急支援金から援助させていただくこととしました。結果、破傷風、狂犬病のワクチン注射を受けることができ、大事には至らずに済んだと両親もとても感謝しています。学校も2週間ほど休んだだけで、今ではまた元気で学校に戻ってきてくれました。

平成14年度日本事務局会計実績

(平成14年4月～平成15年6月)

注:平成14年度は会計年度変更の経過措置で14ヶ月実績となっている。(4月～3月を7月～6月に変更)

収入の部	金額	支出の部	金額
前年度繰越	1,276,614	印刷費	56,666
寄付、会費	2,404,574	通信運搬費	157,694
助成金	300,000	会議費	28,700
(国際交流基金)		行事費	440,159
		雑費	11,813
		積立金	0
		支援金	0
		消耗品費	59,348
		備品	164,058
		図書資料費	5,901
		地代家賃	0
		旅費交通費	98,840
		教育研究費	26,000
		広報費	16,750
		水道光熱費	0
		人件費	150,000
		小計	1,215,929
		学校運営資金	2,116,000
		小計	3,331,929
		次年度繰越	649,259
収入合計	3,981,188	支出合計	3,981,188

単位 円

行事費440千円は昨年7月に実施したシンポジウム経費

助成金300千円はこのシンポジウムに対する助成

人件費150千円は平成15年4月から開始した、カンボジア派遣員の内地手当(50千円/月)

平成15年度日本事務局予算

(平成15年7月～平成16年6月)

収入の部	金額	支出の部	金額
前年度繰越	649,259	印刷費	60,000
会費	600,000	通信運搬費	150,000
寄付	1,300,000	会議費	30,000
助成金	600,000	行事費	0
		雑費	0
		積立金	0
		支援金	0
		消耗品費	90,000
		備品	0
		図書資料費	6,000
		地代家賃	0
		旅費交通費	80,000
		教育研究費	10,000
		広報費	38,000
		水道光熱費	0
		人件費	600,000
		小計	1,064,000
		学校運営資金	2,040,000
		小計	3,104,000
		次年度繰越	45,259
収入合計	3,149,259	支出合計	3,149,259

単位 円

日本事務局の予算立案の考え方

カンボジアでの必要経費を予測し、これに日本事務局の経費予測を加え、支出総額とした。

収入については上記支出総額に合わせ帳尻がほぼ零になるように立案した。

実際には会費、寄付、助成金共にこの金額を達成するのは非常に厳しく、スタッフの更なる努力と関係各位の一層のご協力が不可欠である。

平成14年度カンボジア・アジア未来学校会計実績

(平成14年4月～平成15年6月)

注:平成14年度は会計年度変更の経過措置で14ヶ月実績となっている。(4月～3月を7月～6月に変更)

収入の部	金額	支出の部	金額
前年度繰越	5,701	印刷費	36
日本事務局より	7,266	通信運搬費	3,812
日本事務局より	9,895	会議費	50
RC様より(学校建設費)	7,480	行事費	271
RC様より(現地旅費)	150	雑費	2,045
RC様より(国内旅費)	250	積立金	0
韓国事務局より	480	支援金	186
		消耗品費	187
		備品	3,008
		図書資料費	96
		地代家賃	2,680
		旅費交通費	3,371
		教育研究費	0
		広報費	88
		水道光熱費	505
		人件費	4,202
		固定資産購入費	9,880
		小計	30,416
(平均為替レート123.3円/\$)		次年度繰越	806
収入合計	31,222	支出合計	31,222

固定資産購入費内訳

単位 US \$

自動車購入費:3,850ドル 学校建設費:6,030ドル

平成15年度カンボジア・アジア未来学校予算

(平成15年7月～平成16年6月)

収入の部	金額	支出の部	金額
前年度繰り越し	806	印刷費	30
日本事務局より	17,000	通信運搬費	4,500
韓国事務局より	800	会議費	20
		行事費	0
		雑費	700
		積立金	0
		支援金	0
		消耗品費	60
		備品	1,000
		図書資料費	80
		地代家賃	2,300
		旅費交通費	2,900
		教育研究費	0
		広報費	80
		水道光熱費	440
		人件費	5,280
		固定資産購入費	0
		小計	17,390
(予想為替レート120円/\$)		次年度繰越	1,216
収入合計	18,606	支出合計	18,606

単位 US \$

4～7月に会費・ご寄付を下さった方(五十音順・欄外を除く・敬称略)

青木 秀子	小沢 武信	佐河 克哉	佃 吉一	古川 かおる	八坂 涼子
秋元 久美子	小原 正敏	桜井 靖子	戸口 治子	堀内 和子	矢澤 則光
荒川 雄彦	加来 明子	佐藤 和之	長崎 新一	増田 恒子	柳田 文子
井上 和代	柏木 政伸	佐藤 智則	中村 節子	松井 ふみ子	山崎 光子
井上 卓也	金本 陽子	佐藤 寿子	中村 雪武	松田 明美	山崎 美穂
岩田 真理子	川島 鑛司	曾根 文子	長谷川 容一郎	万名 克子	山根 寛
植原 光子	神戸 博子	高木 桂子	波多野 淑子	三浦 聖昭	吉村 悦子
江川 協子	木村 紀征	高松 千枝子	春山 猷子	三浦 知栄子	好本 照子
江本 哲也	木村 由美	瀧口 利章	平塚 千尋	南 康雄	李 香
大澤 龍	小久保 多美子	田中 則子	藤井 恵子	宮澤 和子	脇 信男
大坪 玲子	越塚 忠巳	谷本 清	藤井 幸子	邨田 政道	渡部 友里恵
大山 功	近藤 研一	田村 義和	藤井 昌子	村松 悦子	
桜陽高校生徒職員ご一同	看護教育歴史研究会 代表 坂本 玄子				
有限会社 信和ハウス	(株)スリーエーネットワーク代表取締役 高井 道博				

日韓アジア基金 ~I Love Asia Fund~ **日韓アジア基金(日本) ~I Love Asia Fund Japan~**

代表 禹守根

代表理事 江本 哲也 事務局長 高橋 政行

<お問合せ先>

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2 12 13 アジア文化会館(ABK)

Tel:03-3946-7565 FAX:03-3946-7599

E MAIL: asys@jcom.home.ne.jp (高橋) n-masami@rb3.so-net.ne.jp (広報/樋口)

URL: <http://www.iloveasiafund.com>

ご入会及びご寄付のお願い

学生会員 : 年会費1口2,000円 何口でも
 一般会員 : 年会費1口5,000円 何口でも
 法人会員 : 年会費1口10万円 何口でも
 ご寄付 : 2,000円以上おいくらでも

<郵便局振込 口座番号>

振込口座 00180-2-25153
日韓アジア基金

* 会員になっていただいた方には日韓アジア基金ニュースレターをお届けいたします。

* 今年度より会員、寄付制度が若干変わりましたのでご了承ください。

ボランティア・スタッフ募集中です。

活動へ参加を希望される方は、上記連絡先へご連絡ください。遠方の方でもお手伝い頂ける内容もございます。

***** ニュースレター後記 *****

カンボジアからの情報が届くたびに、災害はどうなったなどと気になりますが、今回のダラ君のお話のように子どものお話があると嬉しくなります。みんないっぱい勉強して夢をかなえてください!(樋口)